

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙4章17～24節>

①「そこで」(17)に注目。「キリストの体に属したのだから」の意味!

聞き様によると、「異邦人のことを悪く言い過ぎでは」と思う箇所かもしれません。しかし、先頭の「そこで」(17)に注目です。前の部分では何が語られていたか？ 神様からキリストの体の一員として生きる新たな世界、教会に招かれたことでした。「そこで、私は主によって強く勧めます」と続くのが今日の箇所です。比較して考えられているのは、教会を知りそこに属して生き始めた後とそれ以前との違いなのです。

「前は、『自分に何をしてくれるか』ばかり考えて生きていた。しかし今は、『自分は何をしてあげられるか』を考えて生きられる」。教会は私たちがそう考えるようになれるために与えられた恵みの場なのです。神様は私たちにただご自身への信仰だけでなく、このように生き始められる場、共同体、教会も与えて下さったのです!

②「古い人」から「新しい人」へ。そのときに大切なのがキリスト!

今中国で、物質的豊かさを求めて走り続けて来た人々が疲れ果ててお寺や教会に救いを求めて来る様子がテレビで紹介されていました。人間は、「肉体」と「(自分の中で完結する)精神」の二つだけで成り立つ存在ではなく、「(自分の外の神とつながる)魂」も加えた三つでなる存在なのです。パウロがここで、「だから、以前のような生き方をして情欲に迷わされ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るように」と呼びかけていますが、「異邦人と同じように歩んではならない」(17)と言われている内容は、そういうことなのです。その際、大事なことは、「キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに(イエスにある真理をそのまま：口語訳聖書)学んだはずです。」(21)、と語られていることです。すなわち、その具体的な生き方もイエス様から教えられるのです! 例：ルカ福音書10章36～37節。「だれが隣人となったか」。